

――ラグビーの魅力は？

トライを奪った時に、みんなで取り切ったっていう感覚が快感で、その瞬間がラグビーの大きな魅力だと感じています。
自分がミスをしても、他の人がカバーしてくれたり、オフロードとかのプレーでも、犠牲になって自分に繋いでくれたって感じる場面が、ラグビーをやっているとたくさんあるんです。
「みんなでこのトライを取り切った」っていう感情が自然と芽生える、それもラグビーという競技の特性でもあり、魅力だと思います。

――SCIXに入ったきっかけは？

SCIXには中学2年か3年から入って、その当時は西宮ラグビースクールと掛け持ちする形でやっていました。SCIXに入ったのも、幼稚園の時にラグビーを勧めてくれた方がきっかけです。SCIXの一般の部にその方が所属していたので。高校にはラグビー部が無かったので陸上部に所属しました。ラグビーに活かせると思って。ただ、ラグビーでウィングやフルバックとなると20～30mをいかに速く走るかが大事なんですけど、陸上だと100mをいかに速く走るかなので、技術的に直結はしてないんですけどね。陸上部の先生が僕の考えを尊重して、ラグビーに寄せたメニューを考えてくださいました。

――キャプテンをしてどうでしたか？

西宮ラグビースクールでもキャプテンをしたことはあったんですけど、当時はチームをまとめるというよりは、自分の思ったことを全て発言するタイプだったんです。高校生になって**SCIXでキャプテンを任されてからは自分の意見を発言しつつも、チームとしてどうするのがいいのか？っていうのを考えられるようになった**と思います。それも縦、横の関係が築けるSCIXだからこそその環境があったからかもしれません。

――SCIXのコーチ陣や指導については？

僕自身は武藤さん（SCIX・武藤規夫コーチ）の現役時代は知らないんですけど、合同練習とか試合をした時に相手チームの監督に「武藤さんはレジェンドだよ」って毎回言われるので、凄い選手やったっていうのはもちろん知ってます。プレーについて何かおっしゃることはあんまり無いんですけど、**アドバイスをくださる時は、物凄いの確なアドバイスをくださいます。「流石やな」って実感する瞬間**です。あと、時々、神戸製鋼OBの方々が練習に来てくださるんですよ。森田（慎也）さんにはかなり面倒をみていただきました。自分の長所であるステップとかも細かく指導してくださいました。「人より上手くなるためには練習量が大切やから、練習時間を有効に、大事にして」っていうアドバイスは特に印象に残っています。あと、**休みの日にステップの自主練をしている動画をLINEで送ったら、すぐに返信があってアドバイスして下さったんです。本当に感激しました。元セブンス代表の現役プレイヤーにケアしてもらえる環境は本当に恵まれている**と思います。

――今後ラグビーは？

生憎予備校の寮にいる間はラグビーはできないんですけど、大学合格後は大学のラグビー部に入ろうと思っています。ただ医学部ラグビー部なので、そこまで強くはないと思うんですけど、ラグビーは続けたいと思っています。

――今後の目標、将来については？

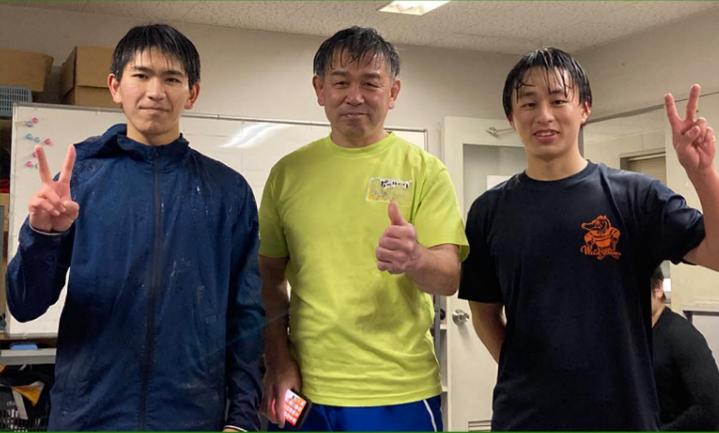
現時点では一年浪人をして熊本大学医学部を受験する予定です。中学一年生の頃に**ラグビーの試合中にかなり酷い骨折をしたんです。その時の手術に執刀して下さったお医者さんに憧れて、医者を目指す**ようになりました。その日が日曜日だったこともあって、手術してもらえる病院がなかなか見つからなかったんで、僕にとっては命の恩人と言っても過言ではありません。執刀して下さった先生のように外科医を目指しています。

――ラグビーを始めたきっかけは？

兵庫県芦屋市の幼稚園に通っていて、その幼稚園の先生の息子さんがラグビーをしていたことから、先生の勧めで年中からラグビーを始めました。身体を動かすことは好きだったんですけど、当時はラグビーのことは良くわかっていない状態でした。幼稚園年中から中学まで西宮ラグビースクールに所属していて、小学校時代は練習が厳しかったこともあって「練習行くの嫌やな」って思ったこともありましたが（苦笑）。ただ、試合になると自分のしたいことができ、試合は好きだったので、辞めようと思うことはなかったです。

――初めてSCIXの練習を見た時の印象は？

初めて SCIXに行った時は、友達と一緒に見学に行きました。**SCIXの練習メニューがタックルより走るメニューが多かったので、自分の長所を伸ばせる環境**になってという印象がありました。実際、中学の頃と比べてステップや走る技術を身につけることができたと感じているので、走るメニューが多くて、グラウンドも広く使えるSCIXだからこそ、そういった点を自分の長所として伸ばせたのかなと思います。



SCIX武藤コーチ（中央）と南部さん（向かって左）

――練習メニューについては？

練習時間という部分では他のチームに絶対負けてしまうので、**少ない練習時間、少ないメンバーでどう練習メニューを組めばチームとしての長所を伸ばせるかというのを意識**していました。練習時間が少ないのでウエイトなどの身体を作るトレーニングができないんですよ。なので、体格負けについては仕方がないと諦めて、ランやステップといった自分たちの長所を活かすプランを考えるようにしていました。武藤さんや高木さん（SCIX・高木聡コーチ）にアドバイスを仰ぐ場面ももちろんありましたが、**自分でメニューを考えるのも好きだったので、コーチと連携しながら練習メニューを考えたり**もしていました。学校の部活だと先生と生徒という感じで壁ができたり、コミュニケーションが取りにくかったりすることもあるかもしれないですけど、SCIXはクラブチームということもあって、全くそんな感覚はなかったです。**お互いを尊重しつつ、フラットな関係が築ける環境**だと思います。

――ラグビーによって得たものは？

今年是不合格で残念ながら医学部進学は無理だったんですけど、**受験前の一ヶ月、一番最後の追い込む時期に、力尽きることなくやりきれたという自負**があります。もちろん、他の人たちも頑張ってるんですけどね。**これまでラグビーをやってきて、練習がきつい時とか、追込まれた時に最後まで出し切った経験があったから**こそ、受験でも最後まで自分の実力を出し切れたと思っています。

――SCIXの練習環境については？

どんな練習をするにしてもスペースが狭いとチームとしてのプレーができなかったりするんですけど、**毎回あの大きなグラウンドが使えるっていうのは大きなメリット**だと思います。僕も西宮ラグビースクールにいた頃は河川敷で練習をしていたので、SCIXの環境の良さは実感しています。時々、**隣で神戸製鋼の選手が練習**をしていることもあって、その環境にも慣れてはくるんですけど、それでもやっぱり名だたるプレイヤーたちの姿にテンションは上がりますね。

――文武両道という意味でSCIXは？

SCIXが文武両道を理念として掲げているのは知らなかったんですけど、僕にSCIXを紹介してくださった方を含め、文武両道でラグビーをやっているメンバーが多いというのは知っていました。**週2回の練習というのは、勉強と両立したい僕にとって大きな魅力**でした。それもSCIXでラグビーをすることに決めた理由の一つです。木曜の練習は高校から直接灘浜のグラウンドに行っていたんですけど、それだと**練習開始時間より一時間ほど早く着くので、その間クラブハウスで課題含め勉強**をしていました。ラグビーの上達も、勉強との両立も時間を有効に使うことが大事だと思っています。

南部 祥一郎さん

（なんぶ しょういちろう）
2021年度SCIX男子ラグビークラブ・キャプテン
神戸大学附属中等教育学校卒業
高松予備校在学

――ハード面以外のSCIXの魅力は？

週2回の練習のうち土曜の練習は、**中学生から大人まで一緒に練習するので、縦の関係が作れる**こともSCIXの魅力の一つだと思います。中学生と大人の間を取り持つ仲介役として高校生が必要とされる場面があるんですよ。**大人ともちゃんとコミュニケーションを取りながら、中学生にも大人から教えてもらったことを伝える**っていうシチュエーションが結構あったので、**コミュニケーション力を磨くことにも役立つ環境**だと思います。それと同時に、SCIXの高校の部自体、人数も少なく、試合になると複数のチームで合同チームを作ることも多かったんです。合同チームでもキャプテンをさせてもらうことが多かったんで、他のチームの監督や、「初めまして」のメンバーとコミュニケーションを取ることも多くて、コミュニケーション力はそういう場面でも培われたと思います。

――ラグビーを通して培ったものはどう活かされる？

大人数の中でプレーするとなると声を出さないとできないですし、何も始まらないですよ。声を出さないと相手のしたいこともわからないですし、僕がしたいことがあっても伝わらない。コミュニケーションが取れないと何もできないと思います。**学校の先生と進路を決める時にも、自分の中での優先順位を話す上でコミュニケーションが大事**になってきますし、**将来医者になった時にも患者さんとのコミュニケーションはとても重要なこと**だと思うので、そういう場面でもラグビーやSCIXで育まれたコミュニケーション力は活かすことができると思います。

